

2009年3月期 第3四半期決算 カンファレンスコール 質疑応答(要約)

第3四半期業績について

Q. 今期新製品の売上が低調とのことだが、理由について説明していただきたい。

A. 今期新製品については、昨年7月に発売した大型製品の「アムロジピン」を最注力品として取り組んでおりますが、先発医薬品メーカーの防衛がまだまだ強いということが苦戦の最大の要因です。加えて、当社としては発売初年度の競合激化による消耗戦を回避するという観点から、当社GE製品の価値を認めていただけるような価格設定をしております。

11月発売になった「セフジニル」については、錠剤化の製剤工夫等によって、順調に売上が伸びております。

Q. 売上増加とともに、売上債権も大きく増加しているが、流通在庫が積みあがっているという懸念はないのでしょうか。

A. 売上債権の増加については、年末の休日影響により、昨年12月末日付の債権回収分が今年1月にずれ込むため、通常の四半期より16億円過大になっております。既に1月初めに回収済みですので、特に問題ないと考えております。

また、12月は流通会社への荷送りが先行する面がありますが、1月には医療機関への納入も順調に進んでおりますので、流通在庫が極端に増えているという問題はございません。

Q. 「収載年度別売上高」は計画に比べ、2003年と2004年発売品目群の売上実績の進捗率が低いですが、理由を教えてください。

A. 数量は増加しておりますが、制度改正での増加計画は下回っており、薬価改正を経て単価が下落していることもあり、売上高としてはそれほど伸びていない状況です。

今期の業績見通しについて

Q. 通期業績予想を変えていないが、売上高は多少足りなくとも、コスト管理によって営業利益以下は達成可能、もしくはさらに増益ということもあるのでしょうか。

A. 売上高については、不況による受診抑制など業界環境は厳しいですが、4Qはインフルエンザ流行で患者も戻ってきており、足元は順調に推移しております。

販管費については、当初の見込みが過大でしたが、コスト管理を厳しくしております。試験研究費は3月までに成果物が得られるため、計画どおりに使う見込みですが、他の経費については若干の余裕を見ており、利益予想はほぼ達成圏内という認識です。

その他

Q. 新中計は、いつ頃、どのようなタイミングで発表されますか。

A. 今年5月の決算発表時に、同時発表の予定です。